

大学等名	多摩大学
プログラム名	多摩大学経営情報学部数理・データサイエンス・AI教育応用プログラム
適用モデルカリキュラム	改定前モデルカリキュラム(2021年3月29日制定)

応用基礎レベルのプログラムを構成する授業科目について

① 申請単位 ② 既認定プログラムとの関係

③ 教育プログラムの修了要件

④ 対象となる学部・学科名称

⑤ 修了要件
 プログラムを構成する下記の科目群のうち、1～6の6科目合計12単位を必須科目として修得すること。なお、7については、選択(推奨)科目とする。
 1. AIの活用基礎:2単位、2. マーケティング・データ分析:2単位、3. マーケティング・データ分析実践:2単位、4. IT活用法:2単位、5. データベースI(Access):2単位、6. 先端情報技術概論:2単位、7. データサイエンスI(データ利活用の基礎スキル):2単位

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無

⑥ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
データサイエンスI(データ利活用の基礎スキル)	2		○										
AIの活用基礎	2	○											
マーケティング・データ分析	2	○	○										
マーケティング・データ分析実践	2	○	○										
IT活用法	2	○		○		○							
データベースI(Access)	2	○			○								

⑦ 応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	
データサイエンスI(データ利活用の基礎スキル)	2		○	○																		
AIの活用基礎	2	○	○	○		○	○	○	○	○												
マーケティング・データ分析	2	○		○																		
マーケティング・データ分析実践	2	○	○	○																		
IT活用法	2	○																				
データベースI(Access)	2	○			○																	
先端情報技術概論	2	○																				

⑧ 応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
AIの活用基礎	2	○			
先端情報技術概論	2	○			

⑨ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンスI(データ利活用の基礎スキル)	データサイエンス応用基礎		
AIの活用基礎	AI応用基礎		
マーケティング・データ分析	数学発展		
マーケティング・データ分析実践	数学発展		
IT活用法	その他		
データベースI(Access)	その他		
先端情報技術概論	その他		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
<p>(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。</p>	<p>1-6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順列、組合せ、集合、ベン図、条件付き確率「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第4回) ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「科目: データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第4回) / 「マーケティング・データ分析」(第5~7回) / 「科目: マーケティング・データ分析実践」(第12回) ・相関係数、相関関係と因果関係「科目: データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第4回) / 「科目: マーケティング・データ分析」(第8回) / 「科目: マーケティング・データ分析実践」(第3回) / 「科目: マーケティング・データ分析実践」(第12回) ・名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度「科目: データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第4回) / 「科目: マーケティング・データ分析」(第2回) ・確率分布、正規分布、独立同一分布「科目: データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第4回) / 「科目: マーケティング・データ分析」(第9回) ・ベクトルと行列「科目: データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第4回) ・ベクトルの演算、ベクトルの和とスカラー倍、内積「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第4回) ・行列の演算、行列の和とスカラー倍、行列の積「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第4回) ・逆行列「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第4回) ・多項式関数、指数関数、対数関数「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第4回) ・関数の傾きと微分の関係、積分と面積の関係「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第4回) ・1変数関数の微分法、積分法「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第4回) <p>1-7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムの表現(フローチャート、アクティビティ図)「IT活用法」(第8回) <p>2-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造化データ、非構造化データ「データベースI(Access)」(第1回) ・情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード「データベースI(Access)」(第2回) <p>2-7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「IT活用法」(第2回、第8回)
<p>(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。</p>	<p>1-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ駆動型社会、Society 5.0「AIの活用基礎」(第10回) / 「科目: データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第1回) ・データサイエンス活用事例(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など)「AIの活用基礎」(第10回) / 「科目: データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第1回) / 「科目: マーケティング・データ分析実践」(第2回) ・データを活用した新しいビジネスモデル「AIの活用基礎」(第10回) / 「科目: データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第1回) <p>1-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「AIの活用基礎」(第11回) / 「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第5回) / 「マーケティング・データ分析」(第14回) / 「マーケティング・データ分析実践」(第4~5回) ・分析目的の設定「AIの活用基礎」(第11回) / 「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第5回) / 「マーケティング・データ分析」(第14回) / 「マーケティング・データ分析実践」(第4~7回) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「AIの活用基礎」(第11回) / 「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第5回) ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)「AIの活用基礎」(第11回) / 「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第5回) ・データの収集、加工、分割/統合「AIの活用基礎」(第11回) / 「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」(第5回) / 「マーケティング・データ分析」(第3回) / 「マーケティング・データ分析実践」(第8~10回) <p>2-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ活用事例「データベースI(Access)」(第1回) ・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「データベースI(Access)」(第1回) ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス「データベースI(Access)」(第4回) <p>3-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「AIの活用基礎」(第15回) ・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)「AIの活用基礎」(第15回) ・フレーム問題、シンボルグラウンディング問題「AIの活用基礎」(第15回) ・人間の知的活動とAI技術(学習、認識、予測・判断、知識・言語、身体・運動)「AIの活用基礎」(第15回) ・AI技術の活用領域の広がり(教育、芸術、流通、製造、金融、インフラ、公共、ヘルスケアなど)「AIの活用基礎」(第15回) <p>3-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI倫理、AIの社会的受容性「AIの活用基礎」(第6回) ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「AIの活用基礎」(第6回) ・AIに関する原則/ガイドライン、規制「AIの活用基礎」(第6回) ・AIの公平性、AIの信頼性、AIの説明可能性「AIの活用基礎」(第6回)

	3-3	<ul style="list-style-type: none"> ・実世界で進む機械学習の応用と発展(需要予測、異常検知、商品推薦など)「AIの活用基礎」(第7回) ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「AIの活用基礎」(第7回) ・学習データと検証データ「AIの活用基礎」(第7回) ・ホールドアウト法、交差検証法「AIの活用基礎」(第7回) ・過学習、バイアス「AIの活用基礎」(第7回)
	3-4	<ul style="list-style-type: none"> ・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)「AIの活用基礎」(第15回) ・ニューラルネットワークの原理「AIの活用基礎」(第15回) ・ディープニューラルネットワーク(DNN)「AIの活用基礎」(第15回) ・学習用データと学習済みモデル「AIの活用基礎」(第15回)
	3-9	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの学習と推論、評価、再学習「AIの活用基礎」(第15回) ・AIの開発環境と実行環境「AIの活用基礎」(第15回) ・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み「AIの活用基礎」(第15回) ・複数のAI技術を活用したシステム(スマートスピーカー、AIアシスタントなど)「AIの活用基礎」(第15回)
<p>(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。</p>	I	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの基礎知識やその活用方法について学ぶ授業では、アクティブラーニングを通じて学生が能動的に学び、理解を深める ⇒「AIの活用基礎」(第1～15回)
	II	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングとしてグループディスカッションを実施。情報通信サービスの可能性を探る過程を通しての情報通信に対するより深い理解と、自身の思考を他者に伝えるスキルの向上を図る。 ⇒「先端情報技術概論」(第1～15回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンス及びAI分野で活躍するために必要な基礎力と応用力の修得 ・情報技術を活用することで、産業社会が抱える問題の発見と解決に寄与できる実践力を修得 ・最先端の情報技術を学ぶことを通して、デジタル改革をリードするスキルを修得

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容

「数理・データサイエンス・AI(応用基礎レベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)における、コア学修項目「3-5 生成AIの基礎と展望」の内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)について、令和7年度以降の実施・検討状況などを記載してください。(教育プログラムに含む・含める科目に限り記載し、構想を含む講義内容が記載出来る場合は記載してください)

※本項目は令和7年度先行認定より改訂版モデルカリキュラムを完全適用することを踏まえ、各大学等の実施・検討状況を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

<p>実施・検討状況</p> <p>「先端情報技術概論」では、生成AIについて「教師なし学習」の代表例である「アソシエーション分析」について考察している。</p>

応用基礎レベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数 男性 人 女性 人 (合計 人)
 (令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数												
経営情報学部	1,324	317	1,280	2	0											2	0%
																0	
																0	
																0	
																0	
																0	
																0	
																0	
																0	
																0	
																0	
																0	
																0	
																0	
																0	
合計	1,324	317	1,280	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)

(役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名)

(役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

当学では教学マネジメントに関わる方針の策定・検証・評価を行うことを目的とし、平成30年4月から組織され、現在に至るまで運営している。具体的には、教育プログラムの構築・改善・進化に関する事項等を審議する役割を担っている。

なお、本プログラムについての改善・進化に伴う施策の策定は教務委員会が行い、自己点検・評価は教育・研究推進センター運営委員会にて実施する。各委員会の施策及び点検・評価の結果は、当該教学マネジメント会議に上程され、最終的な審議・決定を行うこととなっている。

⑦ 具体的な構成員

議長 副学長 教授 杉田 文章
 委員 副学長 兼 グローバルスタディーズ学部長 教授 新美 潤
 委員 経営情報学部長 教授 小林 英夫
 委員 経営情報学研究科長 教授 河野 龍太
 委員 教育・研究推進センター長 教授 小西 英行
 委員 IR推進室係長 満岡 直之
 委員 経営情報学科長 教授 出原 至道
 委員 事業構想学科長 教授 下井 直毅
 委員 グローバルスタディーズ学科長 教授 太田 哲
 委員 経営情報学部教務委員長 教授 落合 孝彦
 委員 グローバルスタディーズ学部教務委員長 准教授 田中 孝枝
 委員 経営情報学研究科教務委員長 教授 川田 英樹
 委員 多摩キャンパス教務課長 中澤 和臣
 委員 湘南キャンパス教務課長 杉本 次郎太
 委員 大学院事務課長 瀧川 浩人

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	0%	令和7年度予定	1%	令和8年度予定	2%
令和9年度予定	3%	令和10年度予定	5%	収容定員(名)	1,280
具体的な計画					
<p>計画した履修者を実現させるため、以下の取り組みを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了証の活用例等をホームページに掲載し、就職活動での利用価値をアピールすることで学生への認知度を高めることを検討する。 ・1～2年生を対象としたオリエンテーションの場を活用し、数理・AI・データサイエンスの重要性和当該プログラムのカリキュラムを案内することを通して、学生の履修意欲を促進させる。 ・本プログラムを構成する「AIの活用基礎」について、2025年度より1クラス編成から2クラス編成に変更した上で開講し、より多くの学生が履修できる機会を設ける。 ・本プログラム用の担当科目報告書を作成し、反省点や改善すべき点を洗い出した上で、履修率向上に向けた施策に反映させる。 					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

<p>本プログラムの対象となるのは経営情報学部にも所属する学生となる。但し、学則の中で他学部科目の履修を認めており、プログラムを構成する科目についてグローバルスタディーズ学部の学生も履修可能としている。</p>

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

<ul style="list-style-type: none"> ・大学の公式サイトで修了要件等を公開している。 ・学内における複数の箇所にチラシを掲示することで、周知を図っている。 ・大学のキャンパスシステムであるT-NEXTを用いて、初回授業前に入学生宛に案内の連絡を行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

・本プログラムの受講にあたっては、Excel・Access等のOfficeソフトを利用することが必須となる。当学では在籍中に学生からの申請を以って、Microsoft 365ライセンスを提供する体制が構築されている。

・学生自身が保有するパソコンに異常が発生した場合等を想定し、メディアサービスの窓口にてノートパソコンや周辺機器の貸出を行っている。

・GoogleClassroomの機能を用いて、講義資料のアーカイブや学修に役立つ参考資料の閲覧が可能となっている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

・オフィスアワー制度の採用により、授業科目の担当教員への直接質問等を受付ける時間を1週間の間で90分以上設定している。なお、本プログラムを構成する「AIの活用基礎」「マーケティング・データ分析」「マーケティング・データ分析実践」「IT活用法」「データベースI(Access)」「先端情報技術概論」「データサイエンスI(データ利活用の基礎スキル)」も当該オフィスアワー制度の適用対象となる。

・総合的な学修支援として、学修サポート室を図書館内に設置している。

大学等名 多摩大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

多摩大学教育・研究推進センター運営委員会

(責任者名) 小西 英行

(役職名) 教育・研究推進センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等														
学内からの視点															
プログラムの履修・修得状況	<p>・本プログラムは2024年度以降入学生を対象としており、且つ、応用基礎を構成する科目の一部は、配当年次を2年生以上に設定していることから、令和8年度以降の数値的な成果を期待するものである。</p> <p>・2025年度からは、本プログラムの構成要素であるAI活用基礎の科目を1クラスから2クラスに編成を見直すことで、履修者の増加を図っていく予定である。</p>														
学修成果	<p>・本プログラムを構成する科目では、レポートの提出だけでなく、グループワークの成果発表や制作したプログラムの相互評価等、様々な切り口で学修成果の見える化を図っている。</p>														
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業は有益(効果的)でしたか」の項目について、プログラム構成科目の状況は以下のとおり概ね4.00に近い評価数値となったことから、ある程度の理解度が身についたものと考えている。</p> <p><評価結果></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">「AIの活用基礎」</td> <td style="text-align: right;">: 4.00(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「IT活用法」</td> <td style="text-align: right;">: 4.29(5段階評価 ※クラス平均値)</td> </tr> <tr> <td>「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」</td> <td style="text-align: right;">: 3.90(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「データベース I (Access)」</td> <td style="text-align: right;">: 4.39(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「マーケティングデータ分析」</td> <td style="text-align: right;">: 4.07(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「マーケティングデータ分析実践」</td> <td style="text-align: right;">: 4.20(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「先端情報技術概論」</td> <td style="text-align: right;">: 4.33(5段階評価)</td> </tr> </table>	「AIの活用基礎」	: 4.00(5段階評価)	「IT活用法」	: 4.29(5段階評価 ※クラス平均値)	「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」	: 3.90(5段階評価)	「データベース I (Access)」	: 4.39(5段階評価)	「マーケティングデータ分析」	: 4.07(5段階評価)	「マーケティングデータ分析実践」	: 4.20(5段階評価)	「先端情報技術概論」	: 4.33(5段階評価)
「AIの活用基礎」	: 4.00(5段階評価)														
「IT活用法」	: 4.29(5段階評価 ※クラス平均値)														
「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」	: 3.90(5段階評価)														
「データベース I (Access)」	: 4.39(5段階評価)														
「マーケティングデータ分析」	: 4.07(5段階評価)														
「マーケティングデータ分析実践」	: 4.20(5段階評価)														
「先端情報技術概論」	: 4.33(5段階評価)														
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業は有益(効果的)でしたか」の項目について、概ね4.00に近い高い数値となったことから、履修済の学生が他の学生に推奨できる授業内容であったと評価できる。</p> <p><評価結果></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">「AIの活用基礎」</td> <td style="text-align: right;">: 4.00(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「IT活用法」</td> <td style="text-align: right;">: 4.29(5段階評価 ※クラス平均値)</td> </tr> <tr> <td>「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」</td> <td style="text-align: right;">: 3.90(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「データベース I (Access)」</td> <td style="text-align: right;">: 4.39(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「マーケティングデータ分析」</td> <td style="text-align: right;">: 4.07(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「マーケティングデータ分析実践」</td> <td style="text-align: right;">: 4.20(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「先端情報技術概論」</td> <td style="text-align: right;">: 4.33(5段階評価)</td> </tr> </table>	「AIの活用基礎」	: 4.00(5段階評価)	「IT活用法」	: 4.29(5段階評価 ※クラス平均値)	「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」	: 3.90(5段階評価)	「データベース I (Access)」	: 4.39(5段階評価)	「マーケティングデータ分析」	: 4.07(5段階評価)	「マーケティングデータ分析実践」	: 4.20(5段階評価)	「先端情報技術概論」	: 4.33(5段階評価)
「AIの活用基礎」	: 4.00(5段階評価)														
「IT活用法」	: 4.29(5段階評価 ※クラス平均値)														
「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」	: 3.90(5段階評価)														
「データベース I (Access)」	: 4.39(5段階評価)														
「マーケティングデータ分析」	: 4.07(5段階評価)														
「マーケティングデータ分析実践」	: 4.20(5段階評価)														
「先端情報技術概論」	: 4.33(5段階評価)														
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>・本プログラムは2024年度以降入学生を対象としており、且つ、応用基礎を構成する科目の一部は、配当年次を2年生以上に設定していることから、令和8年度以降の数値的な成果を期待するものである。</p>														

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等														
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>令和10年度以降は本プログラムを修了した卒業生が企業等に就職するようになる。なお、当学では毎年、卒業後アンケートを通して、卒業生の就職先へのヒアリングを行っている。今後、当該アンケートを用いて修了者の企業評価の分析と改善へのフィードバックを行っていく予定である。</p> <p>2024年度は小田急不動産株式会社と多摩市にご協力頂き、アンケート及び情報交換会を実施した。今回は、DXの重要性に関する意見があり、具体的にはAIを活用できる人材の育成が求められていることについて情報共有した。今後、本プログラムに関しても、産業界からの具体的な意見を確認していきたい。</p>														
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業内容が興味深く触発されることが多い」の項目について、概ね4.00に近い高い数値となったことから当該項目は概ね達成できたと考えている。</p> <p><評価結果></p> <table border="0"> <tr> <td>「AIの活用基礎」</td> <td>:4.00(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「IT活用法」</td> <td>:4.22(5段階評価 ※クラス平均値)</td> </tr> <tr> <td>「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」</td> <td>:3.73(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「データベース I (Access)」</td> <td>:4.17.(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「マーケティングデータ分析」</td> <td>:4.04(段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「マーケティングデータ分析実践」</td> <td>:4.04(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「先端情報技術概論」</td> <td>:4.24(5段階評価)</td> </tr> </table>	「AIの活用基礎」	:4.00(5段階評価)	「IT活用法」	:4.22(5段階評価 ※クラス平均値)	「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」	:3.73(5段階評価)	「データベース I (Access)」	:4.17.(5段階評価)	「マーケティングデータ分析」	:4.04(段階評価)	「マーケティングデータ分析実践」	:4.04(5段階評価)	「先端情報技術概論」	:4.24(5段階評価)
「AIの活用基礎」	:4.00(5段階評価)														
「IT活用法」	:4.22(5段階評価 ※クラス平均値)														
「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」	:3.73(5段階評価)														
「データベース I (Access)」	:4.17.(5段階評価)														
「マーケティングデータ分析」	:4.04(段階評価)														
「マーケティングデータ分析実践」	:4.04(5段階評価)														
「先端情報技術概論」	:4.24(5段階評価)														
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「学生(院生)の理解水準を踏まえた説明をする」の項目について、概ね4.00に近い高い数値となったことから当該項目は概ね達成できたと考えている。</p> <p><評価結果></p> <table border="0"> <tr> <td>「AIの活用基礎」</td> <td>:3.91(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「IT活用法」</td> <td>:4.10(5段階評価 ※クラス平均値)</td> </tr> <tr> <td>「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」</td> <td>:4.14(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「データベース I (Access)」</td> <td>:4.22(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「マーケティングデータ分析」</td> <td>:4.02(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「マーケティングデータ分析実践」</td> <td>:4.04(5段階評価)</td> </tr> <tr> <td>「先端情報技術概論」</td> <td>:4.37(5段階評価)</td> </tr> </table> <p>なお、本プログラムの各科目における取組み内容を以下のとおり記載する。</p> <p><取組み内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「AIの活用基礎」では、事例紹介を交えた授業を心掛けている。取り扱うテーマは「ビックデータ」・「機械学習」・「IoT」・「データ分析」等、多岐にわたり、多くの学生の学習意欲を引き出すことを意識している。 ・「IT活用法」では、プログラミングの実技授業だけでなく、定期的な学生によるプレゼンテーションを行い、各学生が相互に修得した知識の共有化ができるよう促すようにしている。 ・「データサイエンス(データ利活用の基礎スキル)」では、統計検定の受験を強く推奨することで、学修目標の明確化を図っている。 ・「データベース I (Access)」では、ビジネスシーンでのトレンドを意識し、扱う教材やテーマを考えながら授業運営を行っている。 ・「マーケティング・データ分析」は、データ収集・分析結果のとりまとめ・報告資料作成までの一貫したプロセスを各学生が一人で完結できるよう、その計画段階から丁寧に教育している。 ・「マーケティング・データ分析実践」は、グループワークによるデータ収集・分析を課しており、チームで取り組むデータサイエンスの追及を重要視している。 ・「先端情報技術概論」は応用事例の紹介にとどまらず、ディスカッションを通じて新たな情報技術サービスの可能性を考えることに力を入れている。 	「AIの活用基礎」	:3.91(5段階評価)	「IT活用法」	:4.10(5段階評価 ※クラス平均値)	「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」	:4.14(5段階評価)	「データベース I (Access)」	:4.22(5段階評価)	「マーケティングデータ分析」	:4.02(5段階評価)	「マーケティングデータ分析実践」	:4.04(5段階評価)	「先端情報技術概論」	:4.37(5段階評価)
「AIの活用基礎」	:3.91(5段階評価)														
「IT活用法」	:4.10(5段階評価 ※クラス平均値)														
「データサイエンス I (データ利活用の基礎スキル)」	:4.14(5段階評価)														
「データベース I (Access)」	:4.22(5段階評価)														
「マーケティングデータ分析」	:4.02(5段階評価)														
「マーケティングデータ分析実践」	:4.04(5段階評価)														
「先端情報技術概論」	:4.37(5段階評価)														

大学等名	多摩大学(経営情報学部)	申請レベル	応用基礎レベル (学部・学科等単位)
教育プログラム名	多摩大学 数理・データサイエンス・AI教育応用プログラム	申請年度	令和7年度

取組概要

目的

「文系・理系の枠を超えた知識・教養」「数理・データサイエンス・AIに関する専門知識」を身につけた学生を輩出し、多摩大学の教育目標である、「多摩グローバル人材の育成」を達成する一助とする。
「数理・データサイエンス・AI教育」への取り組み、学部間交流、及び教育のDX化をさらに推進する。

身に付けることのできる能力

「数理・データサイエンス・AI」に関する専門的な基礎を、経営情報学の分野においてより応用的に活用できる能力

実施体制

○プログラムの自己点検・評価を行う組織体

多摩大学教育・研究推進センター運営委員会

【役割】

- ◎ VOICE等による学生アンケート結果を元に、MDASHの認定科目における授業評価結果について点検・評価を行い、教務委員会へ報告する。
- ◎ 認定科目の担当教員へ自己評価とVOICEに基づく次年度以降の改善提案を依頼し、別途報告書として取りまとめた上で、内容を点検・評価する。

○プログラムの準備・プログラムを改善及び進化させるための組織体

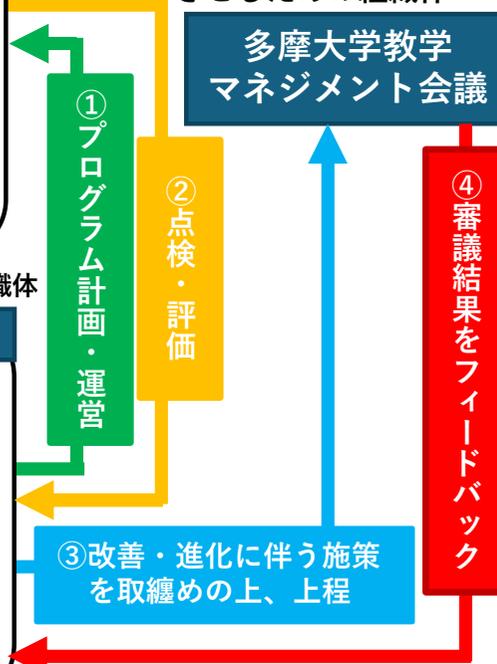
教務委員会

【役割】

- ◎ 学内広報活動を通じてMDASHに関わる科目の履修を促進させる。
- ◎ プログラムの整備にあたり、数理・データサイエンスの体系的な学修を強化するためのシラバス作成とカリキュラム編成を計画的に実施する。
- ◎ 対象科目の履修者数や認定証の発行数等について計画目標を策定。每期、結果数値に基づく分析を行った上で、改善策を協議する。

○プログラムを改善・進化させるための組織体

多摩大学教学 マネジメント会議



※プログラムの運営に当たっては、①～④の順でPDCAを確立

開講されている科目の構成と修了要件

デジタル社会で通用する課題解決能力を身につけるためのより専門的な知識修得を目標とし、以下にある6つの必修科目と1つの選択科目から構成される。

科目名称	区分	単位
AIの活用基礎	必修科目	2
マーケティング・データ分析	必修科目	2
マーケティング・データ分析実践	必修科目	2
IT活用法	必修科目	2
先端情報技術概論	必修科目	2
データベース I (Access)	必修科目	2
データサイエンスI (データ利活用の基礎スキル)	選択科目 (推奨)	2